Panasonic®

取扱説明書

EV・PHEV充電用 充電器

品番 DNH321 （標準タイプ）
DNH321P（充電コントロール機能付タイプ）

EV・PHEV充電用

エルシーヴ
ELSEEV
ヘキア
hekia

このたびはパナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

■ご使用前に**「安全上のご注意」（4～6ページ）を必ずお読みください。**

■この取扱説明書は施工説明書とともに大切に保管してください。

施工説明書、取扱説明書（本紙）、本体貼付ラベルなどの注意書の内容を守らなかったために発生した不具合については、保証期間内であっても無料修理の対象外となります。

目的にあわせてすばやく探す

スマートなカーライフを楽しむために

■各部の名前

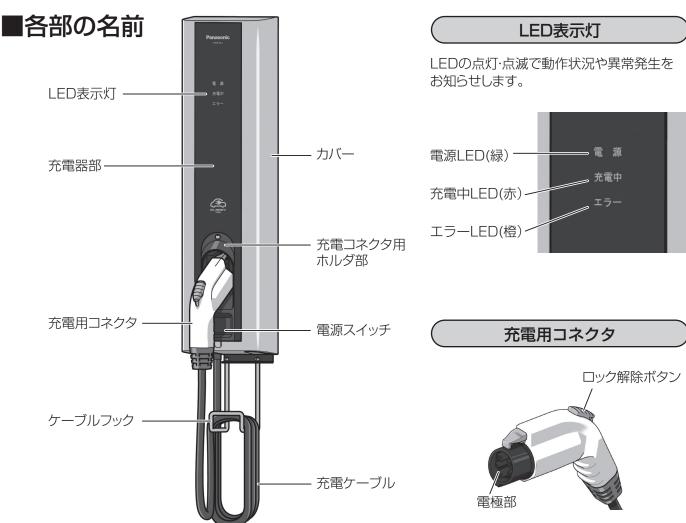
LED表示灯
充電器部
カバー
充電コネクタ用ホルダ部
充電用コネクタ
電源スイッチ
ケーブルフック
充電ケーブル

LED表示灯

LEDの点灯･点滅で動作状況や異常発生をお知らせします。

電源LED(緑)
充電中LED(赤)
エラーLED(橙)

充電用コネクタ

ロック解除ボタン
電極部

故障かな？ 24ページ

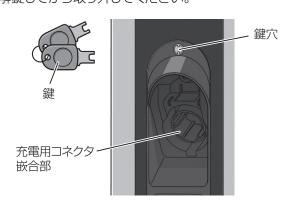
お問い合わせの前に
「故障かな?」(24ページ)を
お読みください。

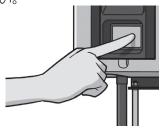
よくあるお問い合わせ

●電源LED、充電中LEDが点灯しない

●充電が開始しない

充電コネクタ用ホルダ部

鍵を閉めることで充電用コネクタをロックします。
充電用コネクタを使用する場合は、鍵を
解錠してから取り外してください。

電源スイッチ

電源スイッチを押すことで、主電源を切断します。
再度電源を入れる場合は、もう1度電源スイッチを
押してください。

もくじ

ご使用の前に
必ずお読み
ください。

安全上のご注意 必ずお守りください

お願い

当社では品質、信頼性の向上に努めていますが、一般的に金属製品は使用年月とともにさびなどの腐食が発生し、樹脂製品は材料劣化･退色などの劣化が発生し、最終的に継続的使用が困難な状態（寿命）が生じます。

また充電用コネクタについても一般的に抜き挿し回数によって継続的使用が困難な状態（寿命）が発生します。

本製品も同様に使用条件、使用場所で異なりますが、本体については施工後10年程度経過すると劣化が進みますので、更に長くご使用いただくためお客様ご自身で定期点検表の点検頻度に基づき必ず定期的に点検してください。

異常や不具合がありましたら、施工工事店までご連絡ください。

本製品はお客様の大切な財産です。確実に点検を行うとともに以下のことを必ずお守りください。

- 万一、注意事項に従わず使用された場合の事故や故障などについては、責任を負いかねます。
- 人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。
（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

■使用時のご注意

⚠警告

感電、火災、やけど、けが、破損などを防ぐために

禁止

- ぬれた手で充電用コネクタを触らない
- 製品の分解･改造は行わない
- 充電用コネクタを水につけない
- 電気自動車およびプラグインハイブリッド車の充電用途以外で使用しない
- 定格容量（200 V/20 A）を超えて使用しない
- 可燃性ガスや引火物の近くで使用しない
- 製品を布や布団、服などで覆わない
- ケーブルフックに充電ケーブルを巻き付けたまま充電しない

禁止

- 幼児や子供には触らせない

- 充電中以外は車両に充電用コネクタを差し込んだまま放置しない
- スイッチの確認・操作をする場合は、絶対に電極部に触れない

必ず守る

●充電用コネクタや充電ケーブルに割れ･欠けなどの異常が発生した場合は、漏電ブレーカおよび電源スイッチを「切」にして、直ちに使用を中止する

施工工事店までご連絡ください。

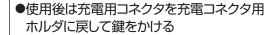
●異常が発生した場合は、漏電ブレーカおよび電源スイッチを「切」にして、直ちに使用を中止する

施工工事店までご連絡ください。

●雨の日に使用する場合は、充電用コネクタの電極部に水がかからないように使用する

必ず守る

●充電用コネクタは確実に奥まで差し込む

●使用後は充電用コネクタを充電コネクタ用ホルダに戻して鍵をかける

●充電ケーブルに付着した雨水などが凍結している場合は、40℃程度のお湯で解凍してから使用する
（電極部にはかからないようにしてください）

●充電電流設定をするときは、電源線やブレーカの許容電流を超えない値に設定する

●カバーを開け電極部の点検やディップスイッチを設定する場合は、漏電ブレーカを「切」にしてから作業する

⚠注意

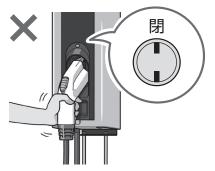
けがや事故などを防ぐために

禁止

●製品の上に乗ったり、もたれかからない

●充電用コネクタに、落下や踏みつけなどの強い衝撃を与えない

●充電ケーブルを、人や車両などで踏みつけない

●充電コネクタ用ホルダの鍵がかかったまま強引に引っ張らない

●充電ケーブルにぶら下がったり、引っ張ったりしない

●製品に殺虫剤をかけない

●充電用コネクタを振り回さない

必ず守る

●充電作業は車両側の取扱説明書に従って作業する

車両側の機器が故障する原因となります。

●使用を終了した製品は、万一の場合の脱落防止のため、放置せずに撤去する

●充電用コネクタはロック解除ボタンを押しながら抜く

●充電ケーブルは、地面に触れないように巻き付ける

●充電ケーブルは、推奨巻き回数になるように巻き付ける
（約6巻き　1巻き:約1m～1.2m）

安全上のご注意 必ずお守りください

■保守・点検時のご注意

感電、火災、やけど、けが、破損などを防ぐために

⚠警告

禁止

●製品に水をかけて清掃しない

●製品に有機溶剤(ベンジンなど)や家庭用洗剤などをかけて清掃しない

●施工工事店以外は、取付・交換作業を行わない

必ず守る

●お手入れ・点検の際は必ず漏電ブレーカおよび電源スイッチを「切」にする

●点検の結果、異常や不具合が発生した場合は、漏電ブレーカおよび電源スイッチを「切」にして、直ちに使用を中止する

施工工事店までご連絡ください。

●定期点検表(23ページ)に基づき点検頻度を守って必ず定期的に点検し、異常や不具合があれば施工工事店に連絡する

けがや事故などを防ぐために

⚠注意

禁止

●絶縁抵抗計(メガー)を使用しない

絶縁抵抗を計測する場合は、施工工事店へご依頼ください。

~施工工事店様へ~

極間に電子部品が接続されており、製品が破損する原因となりますので、極間では使用しないでください。

禁止

●カバーは無理に取り外したり、取り付けたりしない

カバーの破損の原因となります。

必ず守る

●動物などの排泄物が付着することが考えられる場合は、点検頻度を短くし、安全確認を行う

●本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。

●夏場など直射日光が強い場所で使用する場合は、金属表面温度が高くなるおそれがありますので、特にご注意ください。

●充電用コネクタが汚れていたり、充電用コネクタに水分が付着している場合は乾いた布でふき取ってからご使用ください。

●積雪時は適切に除雪してください。

●清掃方法については「お手入れと点検」(21ページ)をご確認ください。

●表面が汚れたら、よく絞った布やぞうきんなどやわらかいものでふいてください。

●長期間使用しないときは、安全および節電のため電源スイッチを「切」にしてください。

LEDの状態表示

ご使用前に通電確認のため電源LED（緑）が点灯していることを確認してください。
その他のLED 表示は以下のとおりです。正常に点灯していない場合は「故障かな？」(24ページ) をご参照ください。

電源LED(緑)

本体に電源が供給されているときに点灯します。
無通電状態の時に消灯します。

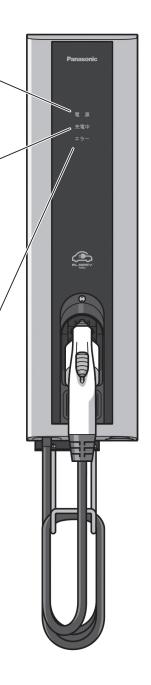
充電中LED(赤)

充電中に点灯します。
異常発生時には、点滅します。(25ページ)
充電していない時や、異常発生していない時は、消灯します。

ご注意

- **Mode1車両は、充電が完了しても充電中LED(赤)は消灯しません。充電完了の確認は必ず車両側で行ってください。**

エラーLED(橙)

異常発生時に点灯します。(25ページ)
正常に動作している時は、消灯します。

ご使用の流れ

確認する

充電モードの確認

車両の充電モードを車両の取扱説明書で確認してください。

充電モードによって充電方法が異なります。

充電モード設定が車両と異なる場合は充電できません。

Mode3車両

工場出荷時は「Mode3車両充電専用」に設定されています。

Mode1車両

充電モードの設定変更

カバーを外し、側面にあるディップスイッチの設定を「Mode1車両充電専用」に変更します。

充電モード・充電電流設定スイッチ

16～19ページ

■充電電流の設定

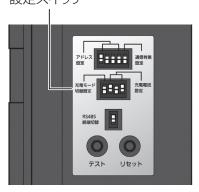
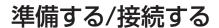
車両への充電電流の最大値を設定することができます。
電流値を大きくすると、より短時間で充電が完了します。
変更方法は16～19ページをお読みください。

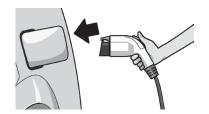
⚠警告

必ず守る

●充電電流設定をするときは、電源線やブレーカの許容電流を超えない値に設定する

発熱・発火の原因となります。

充電モード・充電電流設定スイッチ

充電する

10・11ページ

準備する/接続する

Mode1車両の場合は、電源スイッチの操作が必要になります。

12・13ページ

充電中/片付ける

充電ケーブルをケーブルフックに巻き付け、充電用コネクタを充電コネクタ用ホルダに戻します。

14・15ページ

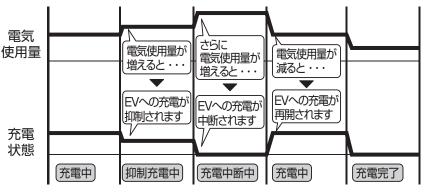
■充電電流の自動制御

(DNH321Pの場合)

ピークコントロールボックス(別売)と連携することにより、EV充電により住宅内の電気使用量が増えると、ブレーカが切れないようにEV充電を抑制･中断させます。

充電器本体で設定した充電電流設定値を超えない範囲で 制御を行います。

ピークコントロールボックス(別売)と連携した場合のイメージ図

充電方法 1-A　Mode3車両への充電

準備する

1 LED表示で通電を確認する

LED表示状態については7ページをお読みください。

2 充電コネクタ用ホルダの鍵を開ける

3 充電用コネクタを取り外す

4 巻き付けてある充電ケーブルをすべて取り外す

⚠警告

禁止

●ぬれた手で充電用コネクタを触らない

感電の原因となります。

必ず守る

●雨の日に使用する場合は、充電用コネクタの電極部に水がかからないように使用する

感電の原因となります。

●充電ケーブルに付着した雨水などが凍結している場合は、40℃程度のお湯で解凍してから使用する（電極部にはかからないようにしてください）

火災・感電や故障の原因となります。

お願い
●車両側の充電開始･終了作業については、車両側の取扱説明書に従って作業してください。
●LED 動作に異常がある場合は、施工工事店までご連絡ください。

接続する

1 充電用コネクタを車両の給電口に差し込む

2 「ガチャ」と音がして、ロックがかかったことを確認する

⚠警告

必ず守る

●**充電用コネクタは確実に奥まで差し込む**
発熱･火災の原因となります。

3 LED表示で充電が開始されたか確認する

充電モード設定をMode1車両専用に設定していると、Mode3車両に充電できません。
充電モード設定変更方法は16～19ページをお読みください。

続きは**14**ページ

充電方法 ❶-B

Mode1 車両への充電

準備する

1 電源が「切」になっていることを確認する

点灯している場合は、電源スイッチを押して電源を「切」にする。
LED表示状態については7ページをお読みください。

2 充電コネクタ用ホルダの鍵を開ける

3 充電用コネクタを取り外す

4 巻き付けてある充電ケーブルをすべて取り外す

⚠警告

禁止

- ●ぬれた手で充電用コネクタを触らない

感電の原因となります。

必ず守る

- ●雨の日に使用する場合は、充電用コネクタの電極部に水がかからないように使用する

感電の原因となります。

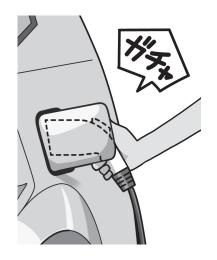
- ●充電ケーブルに付着した雨水などが凍結している場合は、40℃程度のお湯で解凍してから使用する（電極部にはかからないようにしてください）

火災·感電や故障の原因となります。

●車両側の充電開始･終了作業については、車両側の取扱説明書に従って作業してください。
●LED 動作に異常がある場合は、施工工事店までご連絡ください。

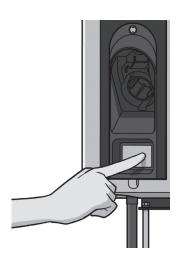
接続する

1 充電用コネクタを車両の給電口に差し込む

2 「ガチャ」と音がして、ロックがかかったことを確認する

⚠警告

●充電用コネクタは確実に奥まで差し込む

発熱･火災の原因となります。

3 電源スイッチを押して電源を「入」にする

4 LED表示で充電が開始されたか確認する

電源LED（緑）、充電中LED（赤）が点灯していることを確認してください。

- ●車種によっては充電できない場合があります。
- ●瞬時停電が発生すると、安全性を保つため、充電が停止する場合があります。再度充電する場合は電源スイッチを「切」にし、再び「入」にしてください。
- ●充電モード設定をMode3車両専用に設定していると、Mode1車両に充電できません。
  充電モード設定変更方法は16～19ページをお読みください。

続きは**14**ページ

充電方法 ②

充電中

充電するときは以下のことに注意してください。

⚠ 警告

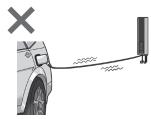
禁止

●ケーブルフックに充電ケーブルを巻き付けたまま充電しない

発熱・火災の原因となります。

充電用コネクタに落下や踏みつけなどの強い衝撃を与えないようにする

充電ケーブルは無理に曲げないようにする

充電ケーブルで足を引っかけないように注意する

充電ケーブルは十分な余裕を持たせた状態で接続する

充電ケーブルは、人や車両などで踏まれないようにする

片付ける

Mode1車両の場合

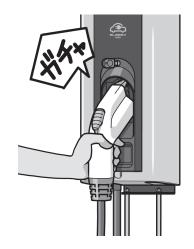
充電コネクタを車両から取り外す前に電源スイッチを押して電源を「切」にしてください。

1 充電用コネクタを車両から取り外す

2 充電ケーブルをケーブルフックに巻きつける

⚠注意

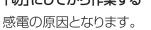
- **充電ケーブルは、地面に触れないように巻き付ける**
  足の引っ掛けや充電ケーブルが傷つく原因となります。
- **充電ケーブルは、推奨巻き回数になるように巻き付ける（約6巻き　1巻き:約1m〜1.2m）**
  推奨巻き回数を超えて巻き付けると、充電ケーブルが屈曲して、被覆が破れたり断線するおそれがあります。感電・発火の原因となります。

3 充電用コネクタを充電コネクタ用ホルダに戻す

4 「ガチャ」と音がして、ロックがかかっていることを確認する

5 充電コネクタ用ホルダの鍵を閉め、鍵を抜く

充電設定の変更 ❶

必ず守る

●カバーを開け、ディップスイッチを操作する場合は、必ず漏電ブレーカおよび電源スイッチを「切」にしてから作業する

感電の原因となります。

●充電電流設定をするときは、電源線やブレーカの許容電流を超えない値に設定する

発熱・発火の原因となります。

雨水が吹き込まないように、雨天時などを避けて、作業する

■本体は、下記のような設定ができます。（設定方法は、18・19ページ参照）

設定内容	内容説明	設定可能範囲
充電モード設定	**充電できる車両（充電モード）を設定します。※1** Mode1車両充電専用モードを選択した場合は、ピークコントロールボックス（別売）による制御ができなくなります。	①Mode3車両専用（初期設定） ②Mode1車両専用
充電電流設定	**充電時の最大許容電流値を設定します。** 車両は最大許容電流値範囲内で充電を行います。 常に最大許容電流値で充電を行うわけではありません。 一般的に最大許容電流値の設定値が大きいほど、充電容量が大きくなるため、満充電までの時間が短くなります。 最大許容電流値の設定が有効にならなかったり、設定値を小さくすると充電が開始しない車種があります。 特別なことがない場合は、初期設定のままとしてください。	① 6A　② 8A　③10A ④12A　⑤14A　⑥16A（初期設定） ⑦18A　⑧20A

※1　設定できる充電の充電モードは以下の2種類です。（国際規格IEC61851-1）

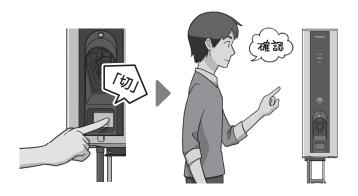
Mode1　電源供給のみ（制御回路なし）

Mode3　充電器側に制御回路内蔵

■ピークコントロールボックスと接続した場合の設定項目（DNH321Pのみ）

設定内容	内容説明	設定可能範囲
アドレス設定	**充電器本体のアドレスを設定します。** ピークコントロールボックス（別売）と接続して使用する場合は初期状態から変更しないでください。 変更すると通信ができなくなります。	01〜15、32（初期設定：01）
通信有無設定	**ピークコントロールボックスとの通信有無を設定します。** ピークコントロールボックス（別売）と接続して使用する場合は初期状態から変更しないでください。 変更すると通信ができなくなります。	①通信有（初期設定） ②通信無

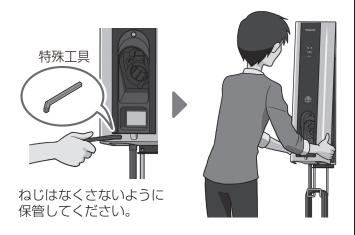
充電設定の変更手順

1 漏電ブレーカおよび電源スイッチを「切」にして電源LEDが消灯していることを確認する

2 カバーを取り外す

① カバー固定ねじを付属の特殊工具で取り外す

② カバー下部を持ち、手前方向に引いて上に持ち上げ、カバーを取り外す

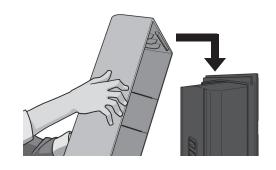
ねじはなくさないように保管してください。

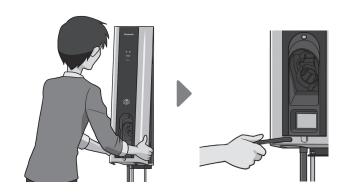
⚠注意

●カバーは無理に取り外したり、取り付けたりしない
カバーの破損の原因となります。

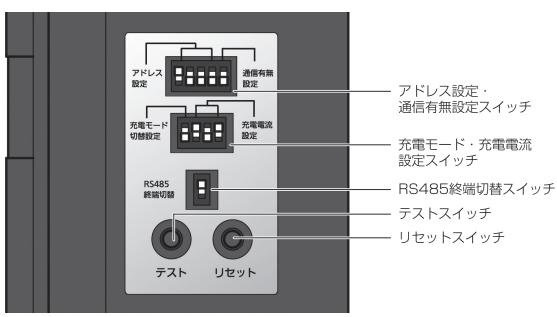
3 ディップスイッチの設定を変更する

スイッチの設定方法は、18･19ページ参照

4 カバーを取り付ける

① 取付ベースの溝部にカバーの突起部を合わせてはめ込む

② カバー下部を持ち、位置を合わせてカバーを取り付ける

③ カバー固定ねじを付属の特殊工具で取り付ける

5 漏電ブレーカを「入」にした後、電源スイッチを「入」にして電源LEDが点灯していることを確認する

充電設定の変更 ❷

図は、工場出荷時の設定

テストスイッチ

本体の漏電保護機能の確認をするためのスイッチです。
定期点検時にご使用ください。（22・23ページ）

リセットスイッチ

漏電保護機能の確認をした後、漏電状態を解除するためのスイッチです。
定期点検時にご使用ください。（22・23ページ）

アドレス設定・通信有無設定スイッチ

※DNH321Pのみ有効

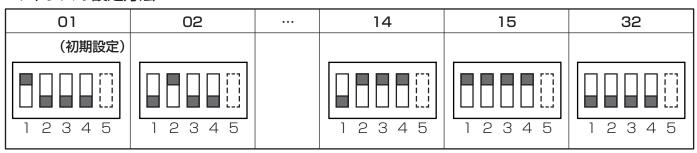
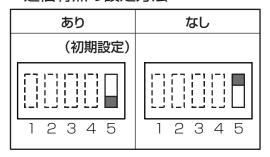
本体のアドレス番号および、通信有無を設定するスイッチです。設定方法は下図をご確認ください。
特別なことがない場合は、初期設定状態から変更しないでください。
設定を間違えるとピークコントロールボックスとの送受信ができなくなる可能性があります。

●アドレスの設定方法

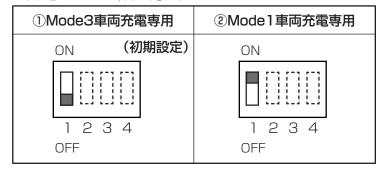
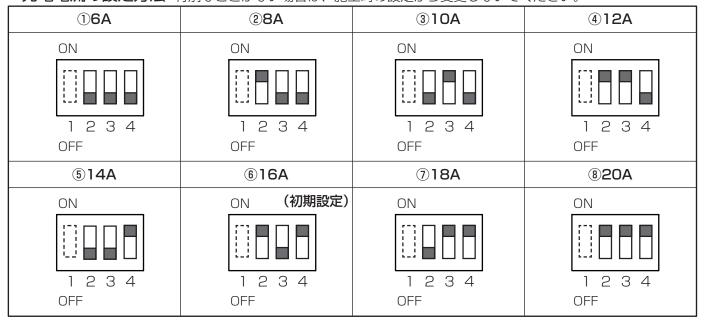
01	02	…	14	15	32
（初期設定）					

●通信有無の設定方法

あり	なし
（初期設定）	

ディップスイッチの設定

充電モード・充電電流設定スイッチ

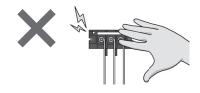
充電モードと充電時の最大許容電流値を設定するスイッチです。
設定方法は下図をご確認ください。

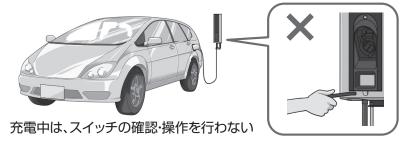
●充電モードの設定方法

●充電電流の設定方法 特別なことがない場合は、施工時の設定から変更しないでください。

RS485終端切替スイッチ

通信ラインの終端抵抗有無を切り替えるスイッチです。
特別なことがない場合は、初期設定状態から変更しないでください。
設定を間違えるとピークコントロールボックスとの受信ができなくなる可能性があります。

●RS485終端切替の設定方法

漏電保護機能の確認

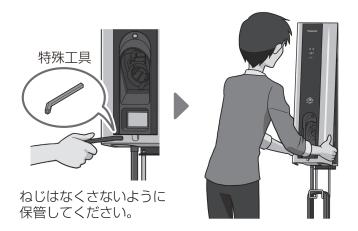
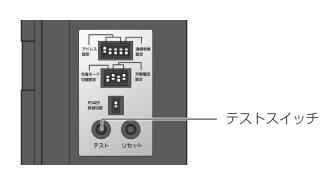
⚠警告

禁止	●スイッチの確認・操作をする場合は、絶対に電極部に触れない 感電の原因となります。
必ず守る	●電源スイッチやLED動作に異常が発生した場合は、漏電ブレーカおよび電源スイッチを「切」にして、直ちに使用を中止する 施工工事店までご連絡ください。

充電中は、スイッチの確認・操作を行わない

雨水が吹き込まないように、雨天時などを避けて、作業する

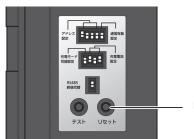
●半年に1回の頻度で、「テストスイッチ」を押して、充電ケーブルユニットから車両間の漏電保護機能が正常に動作するか確認してください。

1 カバーを取り外す

カバーの取り外しかたは17ページの 2 をお読みください。

ねじはなくさないように保管してください。

2 テストスイッチを押す

3 充電中LED(赤)が点滅し、エラーLED(橙)が点灯することを確認する

充電用LED(赤)	エラーLED(橙)
10秒間 / 点滅	エラー
10秒間に3回点滅繰り返し	点灯

4 リセットスイッチを押して、充電中LEDとエラーLEDが消灯することを確認する

5 カバーを取り付ける

カバーの取り付けかたは17ページの 4 をお読みください。

お手入れと点検 ❶

お手入れのしかた

●表面が汚れたら、よく絞った布やぞうきんなどやわらかいものでふいてください。

●積雪時は適切に除雪してください。

●充電用コネクタが汚れていたり、水分が付着している場合は乾いた布でふき取ってください。

⚠警告

禁止

●**製品に水をかけて清掃しない**
火災・感電や故障の原因となります。

●**製品に有機溶剤（ベンジンなど）や家庭用洗剤などをかけて清掃しない**
火災・感電や破損の原因となります。

必ず守る

●**充電ケーブルに付着した雨水などが凍結している場合は、40℃程度のお湯で解凍してから使用する（電極部にはかからないようにしてください）**
火災・感電や故障の原因となります。

日常点検

●安全にお使いいただくために、日常点検を行ってください。
●点検の結果、異常や不具合があった場合は、電源スイッチを「切」にして、施工工事店までご連絡ください。

【日常点検内容】点検頻度　1回 / 1日

周囲
●可燃性ガスや引火物を近くに置いていないか

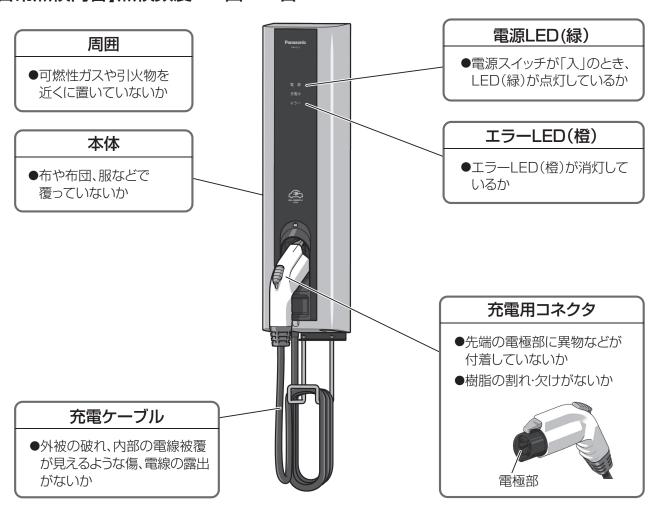
本体
●布や布団、服などで覆っていないか

充電ケーブル
●外被の破れ、内部の電線被覆が見えるような傷、電線の露出がないか

電源LED（緑）
●電源スイッチが「入」のとき、LED（緑）が点灯しているか

エラーLED（橙）
●エラーLED（橙）が消灯しているか

充電用コネクタ
●先端の電極部に異物などが付着していないか
●樹脂の割れ・欠けがないか

電極部

お手入れと点検 ②

定期点検

●製品を長く･安全にお使いいただくために、定期点検を行ってください。

●定期点検の詳細内容は、定期点検表（23ページ）に従い、実施してください。

●塩害地･温泉地など劣化が促進される場所に設置している場合は、点検頻度を増やして（推奨：全ての項目を1回/3か月以上）、点検を実施してください。

●下記のメンテナンススケジュールに記載している交換目安は、交換を推奨する時期です。
保証期間を示すものではありません。
使用環境によって、さらに短い期間で消耗、劣化する場合もありますので、点検リストに従い、定期点検を行ってください。

●定期的にブレーカを点検してください。点検方法はブレーカの説明書に従ってください。

●定期点検時は、雨水が吹き込まないように、雨天時などを避けて、作業してください。

●点検の結果、異常や不具合があった場合や交換作業が必要な場合は、施工工事店までご連絡ください。有料で交換します。
劣化する前に交換することをお勧めします。

⚠警告

禁止

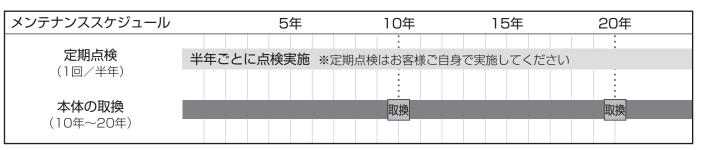
●**スイッチの確認･操作をする場合は、絶対に電極部に触れない**
感電の原因となります。

必ず守る

●**カバーを開け電極部の点検をする場合は、必ず漏電ブレーカを「切」にしてから作業する**
感電の原因となります。

●**点検の結果、異常や不具合が発生した場合は、漏電ブレーカを「切」にして、直ちに使用を中止する**
施工工事店までご相談ください。

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュール	5年	10年	15年	20年
定期点検（1回／半年）	半年ごとに点検実施 ※定期点検はお客様ご自身で実施してください			
本体の取換（10年～20年）		取換		取換

※本体の交換は電気工事士の有資格者が行ってください。

■施工後10年程度経過すると劣化が進みますので、取換をご検討ください。
使用環境によって、さらに短い期間で消耗･劣化する場合もあります。
10年以上ご使用いただく場合、お客様ご自身で定期点検表に基づき、点検頻度を増やして（全ての項目を1回／月以上）点検を実施してください。

■施工後20年以内で必ず取り換えてください。

点検の結果、異常や不具合があった場合や、交換が必要な場合は施工工事店までご連絡ください。

定期点検表

●本点検表を必要枚数コピーしてお使いください。
●点検個所の位置は、各部の名前を参照してください。

●定期点検表に点検日と点検結果を記入してください。
点検結果記入例【○：異常なし、×：異常あり】

●点検頻度　1回/半年

部位	点検個所	点検内容	異常の原因	異常時の処置	点検日					
					/	/	/	/	/	/
充電器本体	外観	さびやさびによる膨れはないか	傷などによるさびの進行	充電器の交換						
		傷やへこみはないか	衝突や強い力による引張りなどによる変形							
	電源LED（緑）	電源が入っているときに、電源LED（緑）が点灯しているか	内部部品の故障							
	充電中LED（赤）	充電中に、充電中LED(赤）が点灯しているか	内部部品の故障							
	エラーLED（橙）	テストスイッチを押したときに、エラーLED（橙）が点灯するか	内部部品の故障							
	テストスイッチ	テストスイッチを押して、漏電保護機能が正常に動作するか（20ページ）	内部部品の故障							
	リセットスイッチ	テストスイッチを押した後に、リセットスイッチを押して、充電中LED（赤）とエラーLED（橙）が消灯するか（20ページ）	内部部品の故障							
充電コネクタ用ホルダ部	外観	樹脂の割れ·欠けがないか	衝突や打痕などの強い衝撃	充電器の交換						
	取付状態	変形·傾きやがたつきはないか	衝突や強い力による引張りなどによる変形							
	充電用コネクタ嵌合部	充電用コネクタを差し込んだとき、ロックがかかるか	衝突や強い力による引張りなどによる変形							
日常点検項目の再確認（日常点検内容は21ページに記載しています）										

故障かな？

下記内容をご確認の上、対処方法をお試しください。
確認の結果、異常がある場合は施工工事店までご連絡ください。

⚠ 警告

必ず守る

●カバーを開け電極部の点検やディップスイッチを設定する場合は、漏電ブレーカを「切」にしてから作業する
感電の原因となります。

現　象	原　因	処　置
●充電が開始しない（充電中LED（赤）が点灯しない）	漏電ブレーカが「切」になっている	漏電ブレーカを「入」にする。
	充電用コネクタが車両から抜けている	充電用コネクタを確実に差し込む。
	充電モード設定がMode3車両専用になっているときに、Mode1車両を接続している	充電モード設定をMode1車両専用に変更する。（16～19ページ）
	充電モード設定がMode1車両専用になっているときに、Mode3車両を接続している	充電モード設定をMode3車両専用に変更する。（16～19ページ）
	車両が満充電状態になっている	車両にて充電状態を確認する。
	Mode1車両を充電中に瞬時停電が発生した ※瞬時停電が発生すると、安全性を保つため充電が停止する場合があります。	電源スイッチを押して電源を「切」にし、再度「入」にする。
	対応していない車両を接続している ※車種によっては、充電できない場合があります。	Mode1設定時、電源スイッチを「入」にしても充電が開始されない場合は、施工工事店までご連絡ください。
	充電電流設定を小さい値にしている ※車種によっては、充電電流設定の値を小さくすると充電を開始しない場合があります。	充電電流設定を大きい値に変更する。（18～19ページ）
	内部部品が壊れている	充電器本体を交換する。 ※交換する場合は、施工工事店までご連絡ください。
●電源LED(緑）が点灯しない	漏電ブレーカが「切」になっている	漏電ブレーカを「入」にする。
	電源スイッチが「切」になっている	電源スイッチを「入」にする。
	内部部品が壊れている	充電器本体を交換する。 ※交換する場合は、施工工事店までご連絡ください。
●充電中LED(赤）が点滅し、エラーLED（橙）が点灯している	異常が発生している	異常発生時のLED表示内容（25ページ）を確認し、異常内容を施工工事店までご連絡ください。
	ピークコントロールボックス（別売）が壊れている（DNH321Pのみ）	ピークコントロールボックスを交換する。充電を一時的に行いたい場合は、「通信有無設定」スイッチを「なし」側にして充電してください。ただし、充電電流の自動制御はできませんので、ご注意ください。ピークコントロールボックス交換後は、「通信有無設定」スイッチを「あり」側にしてください。

異常発生時のLED表示内容

異常が発生すると、充電中 LED（赤）が点滅し、
エラー LED（橙）が点灯します。
異常が発生した場合は、LED の表示内容を
ご確認の上、施工工事店までご連絡ください。

警告

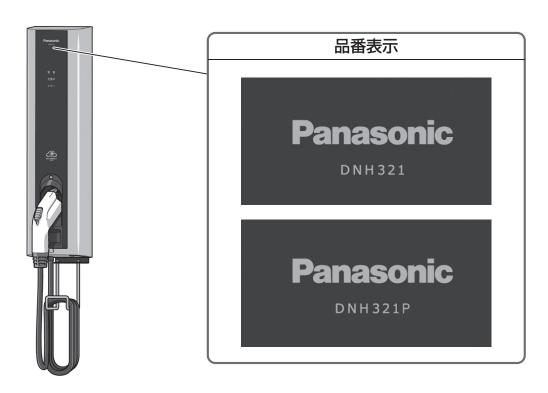
必ず守る

●異常が発生した場合は、電源スイッチを「切」にして、直ちに使用を中止する
感電や火災の原因となります。

エラー名称	エラー内容	電源LED（緑）	充電用LED（赤）	エラーLED（橙）
漏電エラー	本体と車両との間に漏電を検知	電源 **点灯**	10秒間 点滅 **10秒間に3回点滅繰り返し**	エラー **点灯**
漏電未検出エラー	漏電保護機能に異常発生	電源 **点灯**	10秒間 点滅 **10秒間に6回点滅繰り返し**	エラー **点灯**
出力エラー	充電用コネクタと車両が未接続状態で、電源が出力される	電源 **点灯**	10秒間 点滅 **10秒間に1回点滅繰り返し**	エラー **点灯**
非出力エラー	充電用コネクタと車両が接続状態で、電源が出力されていない	電源 **点灯**	10秒間 点滅 **10秒間に2回点滅繰り返し**	エラー **点灯**
CPLT エラー 1	車両との接続確認信号に異常発生	電源 **点灯**	10秒間 点滅 **10秒間に4回点滅繰り返し**	エラー **点灯**
CPLT エラー 2	車両との接続確認信号に異常発生	電源 **点灯**	10秒間 点滅 **10秒間に5回点滅繰り返し**	エラー **点灯**
機器異常エラー	充電器本体に異常発生	電源 **消灯**	10秒間 点滅 **10秒間に10回点滅繰り返し**	エラー **点灯**
通信エラー	充電器本体とピークコントロールボックス間で異常発生	電源 **点灯**	10秒間 点滅 **10秒間に10回点滅繰り返し**	エラー **点灯**

品番表示位置

品番表示位置

●品番は、本体の正面に記載しています。

仕様

本体

品番	DNH321	DNH321P
定格	AC200V　50/60Hz　20A	AC200V　50/60Hz　20A 充電コントロール機能付
使用温度範囲	−25℃ ～ +40℃	
寸法（突起部含まず）	幅164mm × 高さ604mm × 奥行84mm	
質量	約6kg（充電ケーブル含む）	
定格消費電力	5W以下（車両充電容量を除く）	
防水防塵	IP44相当（充電用コネクタを充電コネクタ用ホルダ部に収納した状態）	
充電ケーブル長	約7m	
設置方法	壁面取り付け方式	
設置場所	屋内・屋側（日本国内に限る）	

保証とアフターサービス （よくお読みください）

使いかた・お手入れ・修理 などは
■まず、お買い上げの販売店へご相談ください。
▼お買い上げの際に記入されると便利です。

販売店名
電　話　（　　）　ー
お買い上げ日　　年　　月　　日

修理を依頼されるときは

「故障かな?」(24ページ)でご確認のあと、直らないときは、漏電ブレーカを「切」にしてお買い上げ日と以下の内容をご連絡ください。

●製　品　名	EV･PHEV充電用 充電器 ELSEEV（エルシーヴ） hekia（ヘキア）
●品　　番	品番表示位置は、26ページをご覧ください。
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、施工説明書、取扱説明書の記載内容に従って、お買い上げの販売店･工事店が修理をさせていただきますので、おそれ入りますが販売店･工事店にご相談ください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合は、ご要望により修理させていただきます。
＊ 修理料金は、次の内容で構成されています。

技術料	診断･修理･調整･点検などの費用
出張料	技術者を派遣する費用
部品代	部品および補助材料代

＊ 補修用性能部品の保有期間 5年
補修用性能部品(製品の機能を維持するための部品)を、製造打ち切り後5年保有しています。

■相談先がなくお困りの場合は、以下の**お客様ご相談窓口**にご相談ください。

アフターサービス　パナソニック お客様ご相談窓口のご案内

●使いかた・お買い物などのご相談は

パナソニック 総合お客様サポートサイト
http://panasonic.co.jp/cs/

パナソニック お客様ご相談センター　365日 受付9時～20時

電話 フリーダイヤル（携帯･PHS OK） **0120-878-365**
※携帯電話・PHS からもご利用になれます。

音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの「87」と「990＃」を押してください。
（番号を押しても案内が続く場合は、「※」ボタンを押してから操作してください。）

■上記番号がご利用いただけない場合 **06-6907-1187**
■FAX　フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03)3256-5444 **Osaka** (06)6645-8787
Open:9:00 - 17:30 (closed on Saturday/Sundays/nationalholidays)
※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

●修理・部品などのご相談は

パナソニック エコソリューションズ 修理サービスサイト
http://sumai.panasonic.jp/support/repair/

パナソニック エコソリューションズ 修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-081-365**
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。365日／受付9時～20時

ただし、携帯電話･PHS･IP/ひかり電話などは下記の電話番号へおかけください。
大阪☎06-6906-1090
札幌☎011-261-6401㋫　名古屋☎052-551-7900㋫
東京☎03-5392-7190㋫　福岡☎092-622-0531㋫
※㋫印は大阪へ自動転送になり、拠点から大阪までの転送通信料は弊社負担です。

※電話番号、受付時間などが変更になることがあります。

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示･提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■本資料の記載内容は、平成 24 年 1 月 現在のものです。
■製品改良のため、仕様･外観は予告なしに変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

パナソニック株式会社　パワー機器ビジネスユニット
〒571- 8686 大阪府門真市大字門真1048番地

791 R3600001

DNH321
DC0112-0